

Green Brave

#52 Green Brave GR Supra GT



Round.5

SUZUKA GT 300km RACE

2025年8月23日(土)～24日(日) 鈴鹿サーキット(三重県鈴鹿市)

■劣勢を強いられるも6位に入り確実にポイントを積み増し■

SUPER GT 第5戦が鈴鹿サーキットで行われました。レース距離は300km(52周)です。土曜日(予選日)の天候は晴れ。95分間の公式練習は、10時20分から行われ、吉田選手が最初にコースイン。4周目に1分59秒252のトップタイムをマークし、翌周にピットに入ります。6周目から野中選手がドライブ。赤旗による約9分間の中断を挟み、引き続き走行します。野中選手は11周目の終わりにピットイン。吉田選手に交代し、新品タイヤで予選シミュレーションを実施します。ベストタイムの更新はなかったものの、順位は7位。サクセスウェイトは上限値の50kgに達しており、吸気部品や給油装置の径を絞る、性能調整が課されています。午後に行われたノックアウト予選(Q1)では、吉田選手が3周目に1分59秒141をマーク。2位につけます。あとからアタックを行ったライバルが順位を上げるも、7位でQ1を突破しました。続くQ2では野中選手が3周目に1分57秒826をマーク。8位で予選を終えました。

日曜日(決勝日)の天候も晴れ。前日より暑く、路面温度も上がっています。チームはスタートドライバーに野中選手を起用。タイヤに厳しいレースになることが予想されるので、ピットインのタイミングをなるべく引っ張り、レースの約半分で吉田選手につなぐ計画です。野中選手は9位で1周目を終了。前は#45 フェラーリ、後は#4 メルセデスと、前後を直線の速いFIA-GT3車両に囲まれています。4周目にGT500車両がクラッシュし、SC(セーフティカー)導入。6周の隊列走行の後、10周目からレース再開となります。野中選手は9位をキープしつつも、タイヤに不安を感じており、労わりながら走行。15周終了時からライバルがピットに入り始め、順位が上がっていきます。15周目に8位、19周目に6位、20周目に5位へ。21周目には#60 レクサスと#4 フェラーリ、さらに翌周には2位を走行していた#777 アストンマーティンがピットに入ったため、3位まで順位を上げます。23周目の終わりに野中選手がピットイン。吉田選手に交代し、給油とタイヤ4本交換を行いピットアウトします。

コースに復帰した吉田選手の順位は15位。上位にはまだピットに入っていないクルマが7台あり、全車がピットインを終えた34周終了時点で8位まで順位を上げます。しかし、クルマにはアンダーステア症状が強く出ており、吉田選手は苦戦。39周目、やや強引に#4 メルセデスに抜かれると、今度は#666 ポルシェに攻め立てられます。それでも9位をキープし、40周過ぎから上位にタイヤトラブルが相次いで発生したため、41周目に8位、45周目に7位まで順位を上げます。吉田選手はポジションを守ることができず、46周目に#666 ポルシェに抜かれ、8位フィニッシュ。しかしレース後、上位の2台に失格を含むペナルティの裁定があったため、正式結果は6位となりました。チームランキングは8位にダウン。しかし、トップとのポイント差は縮まっており、上位は大混戦です。



決勝結果 (GT300クラス)

#52 Green Brave GR Supra GT
(吉田広樹/野中誠太)

決勝: 6位 (49周、1時間49分04秒289)
予選: 8位 (Q2: 1分57秒826)



DRIVERS VOICE



吉田広樹 選手

予選後:一番大事なのはQ2に繋げることでした。朝の走行からちょっと気になっていた部分を直し、フィーリング的には良くなったのですが、まわりの順位が上がってきたこともあり、余裕のある順位で誠太につなげられませんでした。ただ、Q2にはちゃんとつなげることができ、誠太がいいアタックをしてくれたので、自分たちが思っているよりいい位置で予選を終えられたと思います。表彰台に登らないとシリーズから脱落してしまいそうな状況なので、ランキング上位のクルマより前でゴールしたいと思います。

決勝後:体力とクルマのバランスに結構苦しんでいて、後半はアンダーステアが強くなってきました。ペースが保てなくなり、別のタイヤを使用するクルマに攻め立てられました。弱いところでどんどん仕掛けられて、ちょっとずつ順位を下げてしまったのが悔しかったです。精一杯やれることはやったと思いますし、こういう苦しいレースでもしっかりポイントを積み重ねていくことができたので、次に繋がっていくと思います。もう1回表彰台や上位に入っていないとシリーズ争いが厳しくなるので、やれることをしっかり探しながら、チーム全体の底上げをしたいと思います。



野中誠太 選手

予選後:公式練習では、赤旗もあり、新品タイヤを試すことができませんでした。少し不安はありましたが、タイヤのグリップを信じていくしかなかったです。それなりにまとまったタイムだったので、一発の速さとしては、無事に終わられたと思います。クルマの感触がそれほどいいわけではないのですが、タイム的には悪くないところにあります。バランスは改善できるポイントがあるので、しっかりとセッティングを煮詰めていけば、ロングに関してはいいところに行けると思っています。

決勝後:スタート直後はタイヤがあまり温まらなくて、ひとつ順位を落としてしまいました。それからは前後の車両と同じようなペースで走っていてもタイヤの状況は良くならず、耐えるような展開になりました。前がピットに入ってから、クリアなスペースでなるべくペースを上げられるようにブッシュして、吉田選手にクルマを渡すことができたので、最低限の仕事ができたかなと思っています。苦しい状況の中でも、チームとしてしぶとく戦えるようになってるので、そこをポジティブに捉えて、いろいろな要素がかみ合った時に、結果を出せるように準備していきたいです。

GT300 決勝結果

順位	車番	車名(車両)	周回数
1位	7	CARGUY FERRARI 296 GT3 (フェラーリ 296 GT3)	49周
2位	61	SUBARU BRZ R&D SPORT (スバル BRZ GT300)	49周
3位	5	マッハ車検 エアスター MC86 マッハ号 (トヨタ 86 MC)	49周
4位	45	PONOS FERRARI 296 (フェラーリ 296 GT3)	49周
5位	4	グッドスマイル初音ミク AMG (メルセデス AMG GT3)	49周
6位	52	Green Brave GR Supra GT (トヨタ GR Supra)	49周

天候:晴 路面:ドライ トップ6まで(出走27台)

GT300 チームランキング

順位	ゼッケン	チーム名	ポイント
1位	65 K2	R&D LEON RACING	79
2位	4	GOODSMILE RACING & Team UKYO	77.5
3位	2	HYPER WATER Racing INGING	67
4位	777	D'station Racing	66
5位	56	KONDO RACING	59.5
6位	61	R&D SPORT	56.5
8位	52	埼玉 Green Brave	50.5

トップ6まで

PARTNERS



第5戦 9月20日~21日
SUGO(菅生)